

Quarterly Journal of Seismology

Vol. XXXVII

報 時 震 驗

第 37 卷

昭 和 47 年

氣 象 庁

Published by the Japan Meteorological Agency

Tokyo

1972

第37巻 総目次

第1号	
長宗留男：実体波から求められる大地震のマグニチュード	1
渡辺偉夫：大津波の波形と最大波高について	9
福岡管区気象台・鹿児島地方気象台・名瀬測候所：1970年の奄美大島付近の 地震活動	25
気象庁地震課：1971年9月6日の樺太南西岸沖の地震と津波	33
第2号	
三浦照夫・湯村哲夫：北海道地方の震度特性について	39
吉田 弘：磁気テープ記録式電磁地震計による地震のマグニチュードの決定	49
気象庁地震課：岩手火山の基礎調査報告	55
函館海洋気象台：渡島大島火山現地調査報告	73
第3号	
勝又 護：地震動の最大加速度の推定	79
山本雅博：1972年2月29日八丈島東方沖地震についての2, 3の考察	89
気象庁地震課：1972年(昭和47)年2月29日八丈島東方沖の地震	97
稲垣豊秋・榎屋清：1965年1月から1970年6月までの阿蘇山における 異常現象について	103
気象庁地震課：気象庁地震観測官署の地盤調査	113
第4号	
柴田武男・竹山一郎・関 彰：地震波形の周波数分析	117
山岸 登：松代で観測された PL_{22} 波の解析	125
仙台管区気象台：東北地方に展開した磁気テープ記録式地震観測装置に 関する諸調査(1)	135
雑報	
1971年著作目録	167

Vol. XXXVII Contents

No. 1	
T. Nagamune: Magnitudes Estimated from Body Waves for Great Earthquakes	1
H. Watanabe: On the Wave-form and Maximum Height of Large Tsunamis	9
Fukuoka D. M. O., Kagoshima L. M. O. and Nase W. S.: Activites of the Earthquakes of 1970 Occurred near Amami-oshima	25
Seismological Division, J. M. A.: The Earthquake and Tsunami of September 6, 1971, Occurred off the South-west Coast of Sakhalin	33

No. 2

M. Miura and T. Yumura: Characteristic of Seismic Intensity in Hokkaido	39
H. Yoshida: Instrumental Magnitude of Earthquakes by Electro-magnetic Seismograms with Magnetic Tape Recorder.....	49
Seismological Division, J. M. A.: A Geophysical Investigation of Volcano Iwate (1970).....	55
Hakodate Marine Observatory: A Field Survey of Volcano Oshima-oshima.....	73

No. 3

K. Katsumata: Notes on Maximum Amplitude of Acceleration of Earthquake Motion.....	79
M. Yamamoto: Notes on the Earthquake of February 29, 1972, off East Coast of Hachijo-jima.....	87
Seismological Division, J. M. A.: The Earthquake of February 29, 1972, off East Coast of Hachijo-jima	97
T. Inagaki and K. Tsuchiya: On the Abnormal Phenomena at Volcano Aso from 1965 to 1970	103
Seismological Division, J. M. A.: Ground Condition of Seismological Station in J. M. A. Network	113

No. 4

T. Shibata, I. Takeyama and A. Seki: Frequency Analysis of Seismic Waves.....	117
N. Yamagishi: On the Analysis of PL_{22} Waves Observed at MATSU-SHIRO SEISMOLOGICAL OBSERVATORY	125
Sendai D. M. O.: Investigations on Electro-magnetic Seismograph with Tape Recorder and Transmitting Unit Developed in Tohoku District (Part 1).....	135

Notes

List of Contributions from J. M. A. on Earthquakes, Volcanoes and Tsunamis (1971).....	167
--	-----

験震時報投稿規定および投稿の手引き

験震時報は全国気象官署の職員が行なった気象庁の地象業務に関連する分野の研究・調査を掲載し、原則として年4回刊行する。内容は論文・報文および雑報である。論文は新しい知見を含むもの、報文は論文と比較して調査・資料的傾向のあるもの、雑報には寄書・短報・速報・討論・著作目録・正誤表を含む。

原稿は投稿規定と投稿の手引きに従って作成する。不備な原稿、次の投稿規定に沿わぬ原稿は返却することがある。

1. 他誌に掲載したものをそのまま再投稿してはいけない。また、他誌に掲載したものの統編形式にはしない。
2. 原稿の本文は和文とする。和文は原稿用紙に読みやすく書く。アブストラクト等の英文はなるべくタイプライターを使う。
3. 表題は和文と英文で書く。
4. 著者名は漢字とローマで略さずに書く。所属官署名は和文で書く。
5. 論文には英文アブストラクトを付ける。英文アブストラクトは別紙に書く。
6. 図はトレーシングペーパーに墨や製図用インクではっきりと描く。また、赤・黄等の紙や方眼紙、リコピーの用紙およびボールペン・サインペン等を使わない。
7. 図表の表題・説明は論文の場合原則として英文で、その他の場合和文で書く。図の表題・説明は別紙にまとめて書く。
8. 本文の末尾における参考文献は、原則として次の形式に従って列記する。

雑誌——著者名(年):表題, 雑誌名, 巻数, 号数(省略してもよい), ページ~ページ。

単行本——著者名(年):書名, 第何版, 発行所, 総ページ pp. 数。または引用ページ。

(例)

久野 久 (1958): 大島火山の地質と岩石, 火山, 第2集, 3, 大島特別号, 1~16。

Gutenberg, B. and C. F. Richter (1942): Earthquake Magnitude, Intensity, Energy and Acceleration, Bull. Seism. Soc. Amer., 32, 163~191。

竹内 均 (1966): 地球物理学 (坪井忠二編), 第1報,

岩波書店, 67~71。

Jeffreys, H. (1959): The Earth, 4th ed., Cambridge Univ. Press, 108~113。

9. 著者には別刷50部を無料で送付する。

10. 原稿送付先は気象庁地震課

原稿を作成するときは、次の投稿の手引きの各項の趣旨に沿うこと。また、原稿提出前には以下の各項に沿って必ず原稿を点検する。

1. 本文

- 1.1 編集・印刷の便宜上400字詰の原稿用紙を使う。
- 1.2 図表用のスペースを本文にあけておかない。
- 1.3 数式は2行取りに書き、数式の文書・記号をはっきりと説明する。
- 1.4 誤まりやすい英字・ギリシャ文字・ベクトル記号にはフリガナを付け、大文字・小文字の別を示す。添え字は判別出来るようはっきり書く。
- 1.5 暦年には原則として西暦を用いる。
- 1.6 人名の敬称は原則として省略する。

2. 表題・アブストラクト・はしがき

- 2.1 表題は具体的に内容とよく伝えるものであること。
- 2.2 英文の目的・仮定・方法・結論等を明確に書き、次の諸点と留意する。①表題をそのまま使って第1行を書き始めない。②図・表・式・文献の番号を引用しない。③第三者の立場で書き、IをWe用いない。
- 2.3 はしがきには、本文の目的・方法・意義・他の研究との関連等を書く。

3. 図表

- 3.1 図表の数は最小限にとどめる。
- 3.2 図表のそう入箇所を本文の欄外に記入する。
- 3.3 図表中の文字・記号等をもれなく説明する。また、必要な単位は必ず付ける。
- 3.4 製版後、図の修正は不可能だから注意する。
- 3.5 原図の大きさは印刷時の2~3倍(線拡大率)くらいがよい。図に記入される英字・数字は印刷時の大きさが1mm、漢字の場合は1.5mm以下にならぬようにする。

昭和48年3月10日発行

編集兼発行人

気 象 庁

東京都千代田区大手町1ノ3-4

印刷所

大東印刷工業株式会社

東京都中央区月島4丁目6-3号